



第3回WGの主な論点



1. 令和5年度：支援証明書、マッチングのモデル的試行において検討する事項

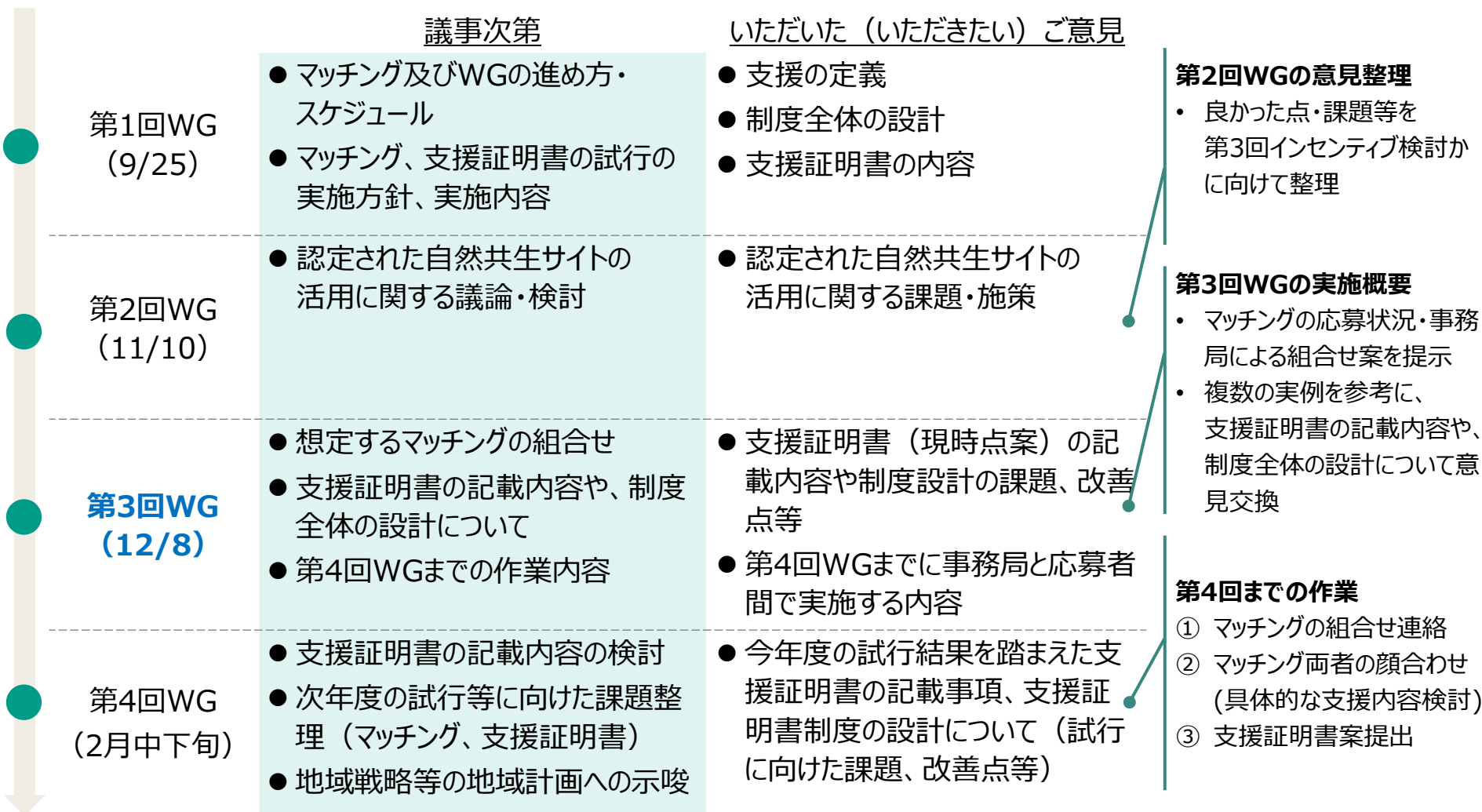
支援証明書の発行体制に関する検討

- 支援証明書の発行団体、発行形態、徴収額、徴収・発行の事務フロー、資金管理等についての詳細検討
- 発行を担うことを想定する団体との調整
- 発行団体が外郭団体や指定法人となる場合は、法制化の検討状況と併せて検討

支援証明書の作り込み、マッチングのモデル的試行 本WGにおける検討事項

- 自然共生サイトの認定サイトと支援希望者とのマッチングのモデル的試行
- 自然共生サイトの認定及び支援をTNFD等において活用できるよう、自然共生サイトや上記マッチングペアについて、投資家目線で証書の記載事項やPRストーリーを具体的に検討する「支援証明書モデル的試行WG」を設置、運営
- 上記結果を踏まえ、支援証明書の作り込み等

2. WGの進め方



【第4回までのアウトプット】

- 令和6年度に実施する試行の実施に向けた課題と試行の実施方針
- 令和7年度以降の本格運用に向けた制度構築に係る論点整理（マッチングの仕組みや、支援証明書の記載について）

3. 本日議論いただきたい事項

- 当該WGの検討事項である支援証明書の作り込み、マッチングのモデル的試行に関して、これまでの議論を踏まえて以下を今回の主な論点として整理した。

【今回WGにおいて議論したい事項】

- 支援証明書の発行の基準、運用（発行時の確認事項等）について
- 支援証明書の記載内容（基本事項、特記事項の内容）について

【中長期的に検討したい事項】

✓ 試行結果を踏まえて議論したい事項

- 支援証明書のT N F D活用の可能性（TNFDメトリクスとの紐付け等）について
- 支援証明書の有効期間について

✓ 自然共生サイトの認定に関する検討状況や実績等を踏まえて議論したい事項

- 追加性の評価手法（インパクトの定量化等）について
- 認証機関や第三者機関が関わる仕組みについて

4. 情報開示に係る議論を行うにあたっての前提となる考え方 1/2

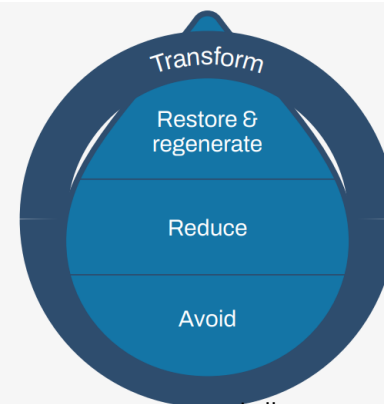
- ネイチャーポジティブ及びそれに資するネイチャーポジティブ経済の実現のためには、事業活動による自然への負の影響を減らすことが肝要。すなわち開発行為等における「ミティゲーション・ヒエラルキー」の考え方が、それ以外の事業活動についても採られることが必要である。
- TNFDも、SBTNの「ミティゲーション・ヒエラルキー」の考え方を引いて、「回避・削減・回復・再生の4つのアクションを順を追って実行する必要がある」としており、上述の考え方と整合している。
- そうした財務情報開示における「自然共生サイト」の位置づけとしては、現状、直接的には、同サイトが機会創出に資するケース（自社内のサイトでの保全技術を他者に提供できるケース、サイト保全活動を通じた顧客獲得等）が主となる見込み。
- 一方で、自社の事業活動による自然への負の影響の低減に関する分析・構想が伴わない開示の場合、TNFDに沿っていない（自然への依存・影響が減っておらずリスク回避になっていない）と投資家から見なされたり、NGO等からグリーンウォッシュとして批判される恐れがある。
- 「自然共生サイト」がネイチャーポジティブ経済の実現に効果を発揮するためには、最終的にそれらがどう自社の事業活動による負の影響の低減に資するのか、ひいては自社が影響を及ぼし得る主体による活動による負の提供の低減に資するのか、といった観点からの分析が必要である。
- 本WGでは、そうした観点からもストーリー作り、支援証明書の記載事項作りにご助言賜りたい。

TNFDにおけるリスク・機会の考え方

「リスクと機会への対応において、自然への負の影響を回避又は最小化する事業活動は、修復努力の追求や、再建又は補償措置による既存の損害の緩和よりも優先されるべきである。」

（TNFD最終提言より、環境省仮訳）

SBTNの行動枠組み（AR3T） / Mitigation Hierarchy

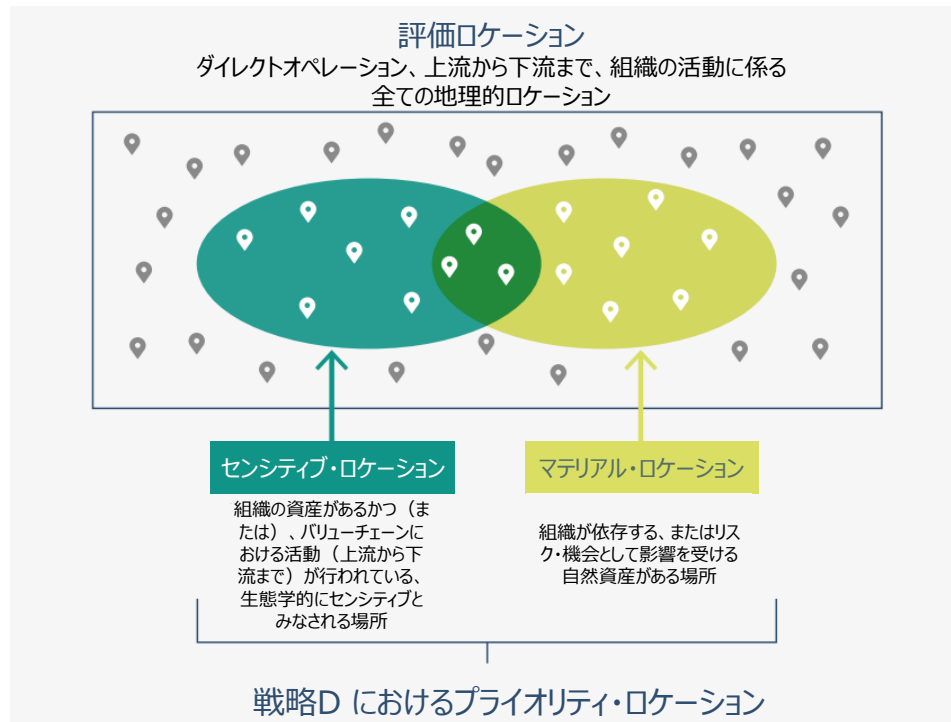


出典：SBTN(2023) Step4. Act

4. 情報開示に係る議論を行うにあたっての前提となる考え方 2/2

- 事業活動による負の影響低減に取り組むに当たっては、優先的に取り組むべき地域を定めることが効果的である。
- TNFDでは事業との関連性において評価する場所を「プライオリティ・ロケーション」としており、このプライオリティ・ロケーションに紐づく支援であれば、支援証明書を自然関連情報開示の根拠として効果的に用いやすい。
- 「プライオリティ・ロケーション」は、上流のみならず下流もあり得、例えば卸売先、顧客等の活動場所をプライオリティ・ロケーションと位置づけ、彼らの自然への依存・影響を分析し、その低減等に取り組むことも考えられる。

プライオリティ・ロケーションの考え方



出典：Recommendations of the Taskforce on Nature-related Financial Disclosures
September 2023 を事務局で翻訳